

## 平成20年度 博士後期課程学位論文要旨

## 学位論文題名

車いす移送車両の安全性・快適性に関する研究—送迎担当者への調査を通して—

学位の種類： 博士（作業療法科学）

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学 系

学修番号06996606

氏 名：鈴木健太郎

（指導教員名：菊池恵美子教授）

【目的】車いす移送車両による送迎を実施している運転、介助、添乗者（以下、送迎担当者）に対して、送迎の状況とその問題の出現状況、及び送迎担当者に求められる安全・快適な送迎に必要な知識や技能の提案を得ることを目的に、調査を実施した。

【方法】送迎担当者 968 名（介護保険関連施設 585 名、自立支援法関連施設 233 名、移送・送迎業者 150 名）を対象に、郵送アンケート法で 2007 年 11 月～12 月に調査した。

アンケートの内容は、回答者の背景、研修の状況、送迎の実施状況、事故とヒヤリ・ハット（以下、HH）の経験、送迎における問題、実施している声かけや運転の工夫・配慮に関する質問で構成した。統計学的分析には、 $X^2$ 検定又はフィッシャーの直接確率を用い有意水準を 5%以下とした。

【結果】274 名（回収率 28.3%）の回答が得られ、内訳は男性 206 名（75.2%）、女性 68 名（24.8%）、年齢は 20 歳代～60 歳代であった。送迎従事前の研修受講者は 194 名（有効回答の 71.3%、以下同様）で、受講した主な研修内容は、車いすの固定方法 174 名（89.7%）、リフトの操作方法 169 名（87.1%）、運転の配慮方法 154 名（79.4%）であった。研修の指導経験者は 159 名（59.3%）で、研修で覚えてもらいたい主な事項として、運転の配慮方法、送迎利用者の心身の状況の理解、緊急時の対応方法が挙げられていた。

送迎中の事故経験者は 76 名（28.9%）、HH 経験者は 202 名（77.1%）で、状況は通常の車両・運転でも起こり得るものが多かった。車両設備等のハードの問題は 174 名（67.2%）、介助方法等のソフトの問題は 224 名（85.5%）、免許制度等その他の問題は 74 名（27.0%）があると回答していた。送迎で配慮している者は 227 名（93.0%）で内容は、気配りや声かけ、介助対応他であった。

送迎の状況と事故、HH、問題、配慮の出現とを解析した結果、送迎エリア（山岳地、丘陵地、平坦地）において問題があると回答した者に、HH 経験（106/127）とハードの問題（100/128）及び送迎で配慮をしている者（114/116）が、1 日当たりの送迎対象者数が 6 名以上の施設において、事故（57/154）HH 経験（129/154）及びソフトの問題をもつ者（138/154）が、送迎前の検討をしている施設で HH 経験者（198/246）が多かった（ $p<0.05$ ）。また、1 日当たりの出動回数が 6 回以上の施設では事故経験者（36/82）が多かった（ $p<0.01$ ）。送迎時間の長短、送迎従事前研修の受講有無、送迎後の検討有無については、有意差は認められなかった。

【考察】本結果より、送迎エリアにおいて問題があるところでは HH 経験やハードの問題が多いことから、送迎担当者にはまず、通常の車両・運転でも起こりうる事故を防ぐために必要な車両の使い方と送迎ルートの熟知が求められると考えられた。また、研修で覚えてもらいたい事項及び送迎で配慮している内容から、送迎担当者には、気配りや声かけ及び送迎利用者個々人に応じた運転・介助の工夫が求められることが示唆された。